

## 里山シンポジウム IN ひろしま 9月7日(木) 開催

「広島県、ひろしまの森林づくりフォーラム」主催。基調講演は、黒田慶子氏(神戸大学名誉教授)による『次世代に森を残すために私たちが目指すこと』。二部では『伐って使って若返らせて未来を創る里山管理』について事例の発表等、パネルディスカッションが行われました。もりメイト倶楽部からも多くのメンバーが参加しました。大変刺激を受けたシンポジウム、山本理事長からは黒田氏が挙げる方向性に合った倶楽部の活動実績を、山本薫さん他からの感想を紹介します。



### = 里山シンポジウム IN ひろしま 黒田慶子氏のメッセージを読み解く = 「次世代に森を残すために私達が目指すこと」とは何か 理事長 山本恵由美

日本の森は「自然」は人との関わりが濃く、千年以上前から里山の資源を利用しつつ持続させてきた、管理している場所。「触るな、伐るな(放置)」では荒れてしまう。里山整備とは、遊びではない、責任が伴う！

まず、生物・植物の知識、森林利用の歴史の知識が必要。理解力、勉強不足で基礎知識が無いままだと重要なことが検討されずトンチンカンに。「多くの森林ボランティア活動は結果として善意が生きてこない」と、黒田氏。理解が浅い「山壊し」の実態も見てきた私は、幸運なことに数年前に黒田氏の講演に出会い、自分の考えにぴったり合う理論に触れ、『我が意を得たり！』と力をもらい、

迷いなく邁進してきました。

胸を張って言えるのは、弊会は整備の施業計画を綿密に行い、また、松枯れ、ナラ枯れ防止の伐倒や薪づくりなどの資源の利用にも重きを置いている。整備の必要性を伝えるため、自主事業もりメイトキッズほか小、中学、大学生へ整備体験を取り入れた環境教育に携わり、指導者の養成、各種研修にも力を入れている。そのような総合的に取り組む組織は稀有な存在だと自負しています。実生・萌芽更新による次への森をつくる意識を持ち、それを使う次世代に手渡す使命を怠ってはならない。襟を正して信念をもって善意を生かさなければと！

### ～森作りは人作り。笑顔溢れ五感の潤う広島の里山をつくり続けて行きたい～

#### 5班 山本 薫(2022年もりメイト倶楽部入会)

里山シンポジウム IN ひろしま」楽しみにしていた黒田先生の講演を拝聴させていただきました。

同気相求…もりメイト倶楽部からもたくさんの方々が出席され情報の共有ができたことと思います。

「次世代に森を残すために私達が目指すこと」と題した黒田先生の基調講演では、もりメイト倶楽部の先輩方々がずっとずっと森林(もり)づくり・里山整備等のために続けて来られてきたことや、私に教えてくれた

こと、私も学び伝えていること…、大切な里山に対する思いが重なること多々…。まるで答え合わせの正解を頂き耳心地良く「この調子でがんばれ！！」と背中を押して頂いた気がいたしました。

これからも同じ志を抱き、続けてきたことを後世に繋いでいくこと「萌芽更新」の如く森が若返り循環するように「地域の人や仲間との協力」「リスクをくいと学びを循環させながら」森林(もり)づくりの土台をしっかりと学び続けて行きたいと思う時間でした。

素晴らしい活動を続けてこられている先輩方々に出会い学びの時間を頂くと、自身に知恵と技術の新芽が芽吹きます。森林(もり)づくりって人間(ひと)づくりの場だと思えるのですよ。センスオブワンダー(自然に触れて深く感動するチカラ)笑顔が溢れ五感の潤う広島の里山 森林(もり)づくりを続けて行きたいな。皆さん これからもよろしくお願いたします。



ビギナーの私は「そうなのか 😊」という驚きばかりでとても刺激的でした。啓発的な取り組みが教育の場に取り込まれば、これからの時代を担う世代に意識の改革をもたらすかも…。国の基は農業、漁業、林業等の一次産業と教育。若者がそれらの仕事に誇りをもって取組んでいける、そして仕事に応じた報酬を得ることができる日本という国を作っていくことが重要なのではと改めて考えさせられました。黒田先生の目指す到達点もそのあたりにあるのではと勝手に想像しながら講演を拝聴しました。(森大好き 拝)

黒田先生お薦め本

